

令和8年度

千葉県公立高等学校入学者選抜
学力検査結果の概要

千葉県教育委員会

目 次

I	概 要	2
II	出題方針（本検査・追検査共通）	4
III	【本検査】教科別の結果	6
IV	【本検査】受検者の得点分布	16
V	【追検査】	18

I 概 要

1 はじめに

令和8年度千葉県公立高等学校入学者選抜では、一般入学者選抜等の本検査及び追検査において学力検査を実施した。その結果等をもとに作成した「学力検査結果の概要」を、本県中学校及び高等学校において、教科指導向上のための資料の一つとして御活用願いたい。

2 実施日及び教科

本検査の学力検査は、令和8年2月17日（火）に国語・数学・英語、18日（水）に理科・社会を、国語・数学・理科・社会は各教科50分、英語は60分、各100点満点で実施した。

追検査の学力検査は、令和8年2月26日（木）に国語・数学・英語・理科・社会を、国語・数学・理科・社会は各教科50分、英語は60分、各100点満点で実施した。

3 調査の対象

本結果は、令和8年度千葉県公立高等学校入学者選抜における一般入学者選抜の本検査及び追検査の学力検査で、全日制の課程を受検した者の結果等をまとめたものである。

なお、本検査の正答率・無答率については、各教科とも令和5年度までは全日制の課程の全受検者のうちから抽出した答案（全体の約10％）によって算出していたが、令和6年度からはデジタル採点システム導入に伴い、全受検者の答案から算出している。

また、追検査は、受検者が少ないため、平均点及び正答率・無答率を記していない。

4 学力検査問題の特徴

学力検査問題の作成に当たっては、各教科とも中学校学習指導要領に基づき、総合的な力をみることができるよう配慮した。

令和8年度の学力検査問題の特徴は、次の2点である。

- 基礎的・基本的な事項の正確な理解度をみることができるよう、複数の解答を選択させ、全て正しい場合にのみ正解とする問題や、理由を書かせる問題を設定した。
- 中学校段階で学習した基礎的な知識を活用して答えを導く問題や、思考力、判断力、表現力等を総合的にみることができるような問題を設定した。

上記2点を柱に、各教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせ、学習活動をとおりて確かな学力を身に付けているかをみる問題を充実させた。

5 結果の概要

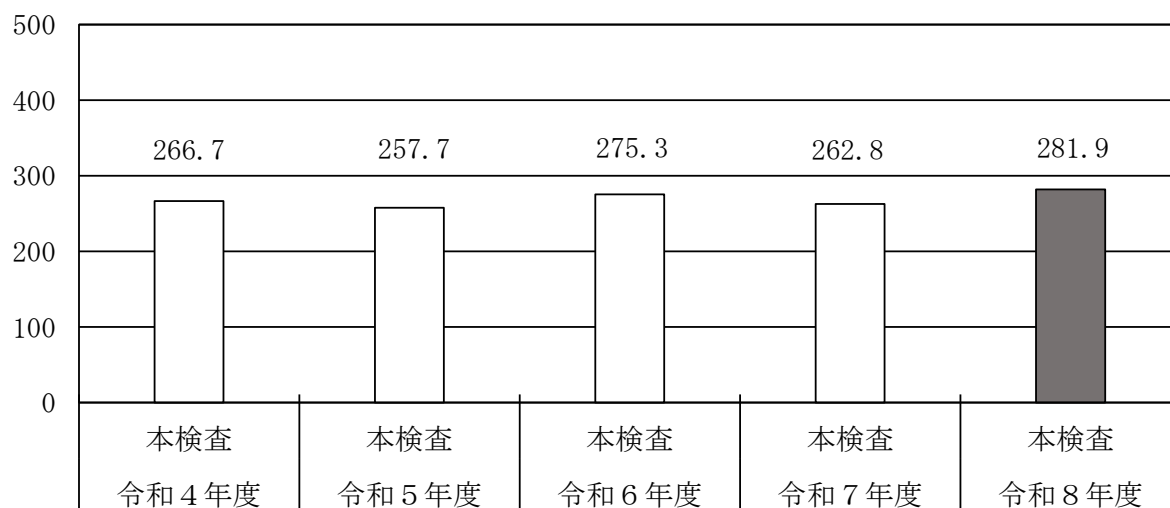
【表】各教科及び5教科の平均点

()内は標準偏差

		国 語	社 会	数 学	理 科	英 語	5教科
令和 8 年度	本検査	54.0 (15.9)	60.0 (19.2)	52.6 (20.1)	55.3 (20.8)	60.1 (24.0)	281.9 (89.9)
令和 7 年度	本検査	56.6 (15.6)	51.7 (19.5)	52.0 (20.8)	55.4 (20.5)	47.1 (21.8)	262.8 (88.3)
令和 6 年度	本検査	50.4 (15.8)	57.5 (22.2)	51.9 (19.4)	59.1 (19.4)	56.4 (24.1)	275.3 (91.8)

【図】5教科の平均点の経年変化

(点)



各教科及び5教科の得点合計の平均点は、【表】に示したとおりである。

また、5教科の平均点の経年変化を【図】に示した。令和8年度の本検査の5教科の平均点を見ると、前年度の本検査より19.1点高かった。

なお、本検査受検者の得点分布については、16、17ページに示した。

Ⅱ 出題方針（本検査・追検査共通）

1 国 語

- ア 学習指導要領に基づき、国語の基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けているか
をみることができるようにした。
- イ 様々な文章について、内容を的確に理解し、書き手の伝えたいことなどを考察する
力をみることができるようにした。
- ウ 自分の立場や考えとその根拠が明確になるように、複数の情報を整理し判断する力
をみることができるようにした。
- エ 言葉による見方・考え方を働かせ、自分の言葉で考えを適切にまとめたり、相手に
的確に伝えたりする力をみることができるようにした。

2 社 会

- ア 学習指導要領に基づき、地理的分野、歴史的分野及び公民的分野からバランスよく
出題し、学習の成果を総合的にみることができるようにした。
- イ 基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けているかを見ることができるようにする
とともに、現代社会の諸課題に対する理解の程度をみることができるようにした。
- ウ 統計や地形図、写真などの諸資料を活用し、社会的な見方・考え方を働かせ、社会
的事象を判断・分析する力、そしてそれを表現する力をみることができるようにした。
- エ 現代社会の諸課題の解決に向けて、多面的・多角的に考察する力や筋道を立てて
思考する力をみることができるようにした。

3 数 学

- ア 学習指導要領に基づき、数学的な見方・考え方を働かせながら行う数学的活動を
通して、数学的に考える資質・能力を身に付けているかを見ることができるように
した。
- イ 数学の基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けているかを見ることができるよう
にした。
- ウ 数学を活用して事象を論理的に考察する力、統合的・発展的に考察する力及び表現
する力をみることができるようにした。
- エ 問題解決のために、数学を活用して粘り強く考える力をみることができるように
した。

4 理 科

- ア 学習指導要領に基づき、第1分野、第2分野からバランスよく出題し、学習の成果を総合的にみることができるようにした。
- イ 自然の事物・現象についての基礎的・基本的な事項の知識や、観察、実験の技能を身に付けているかをみることができるようにした。
- ウ 観察、実験のデータ及び図や表などを活用し、理科の見方・考え方を働かせ、結果を分析して解釈する力、そしてそれを表現する力をみることができるようにした。
- エ 日常生活の中で起こる現象や身近な事物について進んで関わり、科学的に探究しようとしているかをみることができるようにした。

5 英 語

- ア 学習指導要領に基づき、英語の基礎的・基本的な知識及び技能と、英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、理解したり表現したりする力を全領域にわたり身に付けているかをみることができるようにした。
- イ 「聞くこと」の領域では、音声を通して、対話文やまとまりのある文章から話し手の意向や大切な事柄を聞き取り、適切に判断して答える力をみることができるようにした。
- ウ 「読むこと」の領域では、日常的、社会的な話題に関する文章や図表、イラスト等から、必要な情報、概要や要点を読み取り、適切に答える力や、読み取った情報を基に思考し、判断する力をみることができるようにした。
- エ 「話すこと〔やり取り〕」及び「話すこと〔発表〕」と「書くこと」の領域では、日常的、社会的な話題について、基本的な語句や文を用いて話したり伝え合ったりする力及び自分の考えなどを英語でまとめ、適切に書く力をみることができるようにした。

Ⅲ 【本検査】教科別の結果

1 国 語（本検査）

（1）出 題 内 容

大問一（聞き取り検査）は、杉田さんと坂井さんが、総合的な学習の時間に調べた内容について話している場面を聞き、会話の流れを正しく捉え、自分の考えを他者に分かりやすく伝えるための工夫や、デジタルデトックスの正しい報告や意義について考える問題である。大問四（説明的な文章）(5)は同じ著作の関連する箇所を、また、大問六（古典）(5)は、それぞれの文章を読んだ生徒の話し合いの場面を、別資料として提示し、複数資料の分析を通じてさらに深く読み解き、適切に自分の考えを表現する力をみる問題である。大問七（条件作文）は、「新しいもの」と「馴染みあるもの」について、提示された二つの考え方をもとにして、自分の考えを整理し具体例を挙げて説明することで、説得力のある文章となるように工夫して書く問題である。

（2）結 果 の 説 明

全体の平均点は54.0点で、前年と比べて2.6点低くなった。

正答率が高かった問題は、大問二「漢字（読み）」(1)「宛（て）[あ]」、大問三「漢字（書き）」(2)「も（り）[盛]」、大問五「文学的な文章」(4)Ⅰ「文章の内容の理解」、大問六「古典」(1)「歴史的仮名遣い」であった。一方、正答率が低かった問題は、大問二「漢字（読み）」(4)「丘陵（きゅうりょう）」、大問四「説明的な文章」(5)Ⅲ「文章の内容の理解」、大問六「古典」(5)(c)「文章の内容の理解と表現」であった。記述による解答の正答率が低いのは、例年と同じ傾向であり、中学生対象の全国学力・学習状況調査の結果とも一致しており、引き続き、課題であると言える。

無答率が高かった問題は、大問四「説明的な文章」(6)「文章の内容の理解と表現」、大問六「古典」(5)(c)「文章の内容の理解と表現」であった。

（3）指導のポイント

「読むこと」においては、実用的な文章や社会に流布している様々な文章に触れさせ、語彙を豊かにし、文脈をより正確に読み取らせる指導を行うとともに、授業の中で現代の日本が抱える問題に対して興味や関心を持たせるような工夫をし、生徒同士で意見を交わし、自身の考えを深められる時間を確保することが重要である。また、学習指導要領で重視している「情報の扱い方に関する事項」については、複数資料の情報を的確に把握し、条件に従って表現する力を養うために、情報と情報との様々な関係を図式化するなど、情報を整理して自分の考えを形成し記述することを繰り返し行うことが望まれる。「書くこと」においては、授業のまとめや感想を簡潔な文章で書く活動などを通して、書くこと自体への抵抗感を緩和していくことに加え、説明や記録などの文章を読み、理解したことや考えたことを文章にまとめ、グループで読み合ったり、発表したりする活動を通して、自分が表現した内容を確認し、目的に照らし合わせて改善することができるよう指導することが有効である。

(4) 問 題 の 内 容

問		問題の内容	問題形式			正答率 (%)	無答率 (%)
			選 択	短 答	記 述		
一	(1)	放送による聞き取り	○			53.2	0.1
	(2)	自分が驚いた体験 について話す場面	○			59.8	0.1
	(3)		○			68.0	0.2
二	(1)	漢字 (読み)		○		98.0	0.4
	(2)			○		73.8	2.9
	(3)			○		67.8	4.3
	(4)			○		29.8	8.5
三	(1)	漢字 (書き)		○		68.4	24.2
	(2)			○		90.6	3.7
	(3)			○		57.1	10.2
	(4)			○		44.9	27.0
四	(1)	説明的な文章 『つくるをひらく』	○			53.0	0.8
	(2)		○			70.7	0.2
	(3)		○			39.5	0.5
	(4)		○			51.5	1.0
	(5) I		○			60.7	1.2
	(5) II		○			56.8	1.6
	(5) III		○			28.1	3.0
	(6) 4点				○	7.4	
	(6) 1～3点				○	17.2	
五	(1)	文学的な文章 『ひやつか』	○			65.0	0.5
	(2)		○			60.1	0.9
	(3)		○			51.9	1.5
	(4) I		○			90.5	1.5
	(4) II		○			79.8	1.7
	(4) 4点				○	21.8	
	(5) 1～3点				○	20.8	
	(5) 無答						26.1
	(6)		○			41.1	4.9
六	(1)	古典 『徒然草』	○			91.4	1.5
	(2)		○			52.1	2.3
	(3)		○			79.9	3.2
	(4)		○			44.9	5.2
	(5) (a)		○			21.1	6.0
	(5) (b)		○			70.9	6.0
	(5) (c)				○	17.3	55.3
	(6)						
七	12点	条件作文 「新しいもの」と「馴染みあ るもの」について			○	17.8	
	8～11点					21.7	
	4～7点					19.5	
	1～3点					8.1	
	無答						7.8

2 社 会（本検査）

（1）出 題 内 容

各分野において、「基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けているかをみることができる問題」を出題した。

「現代社会の諸課題に対する関心や理解の程度をみることができる問題」として、具体的には、大問 1(4)、大問 4(5)、大問 7(3)、大問 8(3)を出題した。「諸資料を活用し、社会的事象を判断・分析する力をみることができる問題」として、具体的には、大問 1(2)、大問 4(2)、大問 5(4)、(5)、大問 6(1)、大問 7(1)を出題した。「社会的事象について、自らの思考を表現する力をみることができる問題」を、歴史的分野、地理的分野、公民的分野から 1 問ずつ出題した。具体的には、大問 2(4)、大問 5(3)、大問 8(2)である。歴史的分野において、できごとなどを年代の古いものから順に並べ替える問題を出題した。具体的には、大問 3(4)である。

（2）結 果 の 説 明

全体の平均点は 60.0 点で、前年度と比べて 8.3 点高くなった。

分野・内容別の正答率は、総合問題が 90.4%、歴史分野が 54.0%※（前近代史：56.2%※、近・現代史：51.7%）、地理分野が 56.7%※（世界地理：55.6%、日本地理：57.7%※）、公民分野が 58.6%※（国際社会：74.7%、国民生活と経済・社会：54.9%、日本の政治制度：51.5%※）である。なお※の数値は、部分点がある設問を除いた正答率として計算してある。

正答率が高かった問題は、大問 1(2)「自然災害伝承碑とそれに関連する建築物」及び大問 1(4)「東北地方 6 県の祭りについて」であった。一方、正答率が低かった問題は、大問 2(4)「田沼意次の政治」、大問 5(3)「関東地方の土地利用」及び大問 8(2)「三権分立」であった。

無答率が高かった問題は、大問 2(4)「田沼意次の政治」、大問 4(4)「アフリカの農業」、大問 5(3)「関東地方の土地利用」及び大問 8(2)「三権分立」であった。

（3）指導のポイント

地理的分野では、基礎的・基本的な地理的事象や地図の特性を理解し、地図や資料の活用技能の定着を図り、それらを基に諸資料を活用する力を身に付けさせることが大切である。景観写真や統計資料、主題図等から地理的事象や地域的特色を読み取らせる活動を通して、様々なことがらに視野を広げ、読み取ったことを相互に関連付けて考察することで、地理的事象の仕組みや原因、他地域との関わりなどについて理解させたい。

歴史的分野では、歴史の大きな流れをつかみ、基礎的・基本的な知識の定着を図ることが大切である。また、個別の歴史的事象の関連性や因果関係などを理解するために、生徒が主体的に歴史的な見方・考え方を働かせ、年表や図を用いて簡潔に自分の言葉でまとめ、表現する活動が有効である。生徒が知識を暗記するだけでなく、情報を収集し、読み取り、活用につなげる技能を身に付けさせる指導や、歴史的事象の因果関係について生徒が主体的に考察できるような授業実践が重要である。

公民的分野では、新聞やインターネットなどを活用して、時事的な問題への興味・関心を高めることや、複数の資料を活用し、様々な公民的な事象と関連付けて学習を深めることが大切である。例えば、授業の内容と関連した新聞記事やニュース動画を用い、社会の動きと学習内容とを関連付けて考えさせる活動や社会的事象について自らの言葉で要約し、それに対する自分の意見を書かせる指導が有効である。

(4) 問題の内容

問				問題の内容	問題形式			正答率 (%)	無答率 (%)
					選 択	短 答	記 述		
1	(1)	総合問題	縄文時代につくられたもの		○			83.1	0.0
	(2)		自然災害伝承碑とそれに関連する建築物		○			97.5	0.0
	(3)		UNESCOについて		○			86.2	0.0
	(4)		東北地方6県の祭りについて		○			94.6	0.1
2	(1)	前近代史	天平文化について		○			43.1	0.1
	(2)		源頼朝と政治		○			77.7	0.1
	(3)		南蛮貿易		○			56.5	2.1
	(4)		田沼意次の政治			○	21.9		
							12.5		
								13.0	
(5)	「ええじゃないか」に見る民衆の願い		○			81.8	0.1		
3	(1)	近・現代史	新渡戸稲造と国際連盟		○			58.5	0.1
	(2)		甲午農民戦争と日清戦争		○			62.6	0.2
	(3)		原敬と立憲政友会		○			50.1	0.0
	(4)		ペリー来航から第一次大戦のアメリカの歴史		○			43.5	0.2
	(5)		世界で活躍した日本のノーベル賞受賞者		○			43.8	0.2
4	(1)	世界地理	地球上での地点の表し方		○			40.3	0.1
	(2)		世界の地域と植生		○			22.5	0.1
	(3)		アメリカの産業		○			58.5	0.1
	(4)		アフリカの農業			○		74.9	12.1
	(5)		世界各国の人口とエネルギー消費		○			81.8	0.1
5	(1)	日本地理	瀬戸内の自然		○			72.8	0.1
	(2)		九州地方の自然		○			75.9	0.2
	(3)		関東地方の土地利用			○	17.7		
							20.6		
								12.7	
	(4)		地形図の読み取り		○			55.0	0.1
(5)	地理院地図の活用		○			67.1	0.2		
6	(1)	国際	貧困問題		○			88.0	0.1
	(2)		国際的な組織・条約		○			61.4	0.6
7	(1)	経済	税収の推移と特徴		○			66.9	0.4
	(2)		消費者問題		○			18.6	0.2
	(3)		オーバーツーリズムと公共の見方・考え方		○			79.2	0.3
8	(1)	政治	表現の自由		○			65.0	0.5
	(2)		三権分立			○	21.9		
							9.7		
								19.9	
(3)	地方自治		○			67.5	0.7		

3 数 学 (本検査)

(1) 出 題 内 容

大問 1 は、各領域の基本的な問題である。

大問 2 は、関数 $y=ax^2$ 及び一次関数のグラフと、 x 軸に垂直な直線との 2 つの交点を結ぶ線分の長さを利用する問題である。

大問 3 は、円と接線の性質等を利用し、2 つの直角三角形が合同であることから、対応する辺の長さが等しいことを証明する問題である。また、図形の性質を利用し、円の半径を求める問題である。

大問 4 は、正方形の紙を、長さを測らずに 3 つ折りなどにする場合について、会話文や図から正確に情報を読み取り、関数を利用したり相似な図形を応用したりして、3 つ折り以外の場合についても考察する問題である。

(2) 結 果 の 説 明

全体の平均点は 52.6 点で、前年度と比べて 0.6 点高くなった。

数と式の領域では、大問 1(1)②「文字を用いた式(四則演算)」の正答率が最も高く、大問 1(2)②「二次方程式(二次方程式を解くこと)」の正答率が最も低かった。

図形の領域では、大問 3(1)「平面図形(三角形に接する円)」の正答率が最も高く、大問 3(3)「平面図形(角の二等分線の性質・三平方の定理の応用)」の正答率が最も低かった。

関数の領域では、大問 2(1)「関数 $y=ax^2$ (比例定数)」の正答率が最も高く、大問 2(3)「関数 $y=ax^2$ (線分の長さ)」の正答率が最も低かった。

データの活用の領域では、大問 1(5)①「不確定な事象の起こりやすさ(場合の数)」の正答率が最も高く、大問 1(4)②「データの分布(四分位数)」の正答率が最も低かった。

無答率が高かった問題は、大問 3(3)「平面図形(角の二等分線の性質・三平方の定理の応用)」であった。

(3) 指導のポイント

「数と式」

文字を用いた式について、目的に応じて計算したり変形したりするなど、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させるとともに、具体的な事象の数量関係から方程式を立てたり、その解を吟味したりするなど、事象と関連付ける活動をより一層充実させる必要がある。特に、二次方程式の解は、得られた解が問題の答えとして適切であるかどうかを調べることが大切である。

「図形」

観察や操作などの活動を通して、見通しをもって作図したり図形の関係について調べたりするなど、考察を促す指導が必要である。また、証明問題については、証明を振り返り、条件がどのように用いられていたかを確認するといったような活動を通して、論理的に考察する力を養うことが大切である。

「関数」

具体的な事象との関わりを持たせながら指導する必要がある。数学的に解釈し、変化の特徴を見いだした上で、式やグラフなどを用いながら他者に説明するような場面を積極的に設けることで、思考力、判断力、表現力等を育てることが大切である。

「データの活用」

日常生活や社会に関わる問題を取り上げて指導することが重要であり、説明し伝え合う機会を設けることで、理解を深めることが大切である。

(4) 問題の内容

問					問題形式			正答率 (%)	無答率 (%)
					選択	短答	記述		
1	(1)	①	数と式	正の数と負の数（四則計算）		○		89.0	0.1
		②		文字を用いた式（四則演算）		○		90.5	0.8
		③		正の数の平方根（根号を含む式の計算）		○		82.6	3.0
	(2)	①		二次方程式（文字を用いた式で表す）	○			84.1	0.1
		②		二次方程式（二次方程式を解くこと）		○		72.8	4.0
	(3)	①	図形	平面図形（円の性質）	○			67.1	0.3
		②		平面図形（円の性質）		○		63.5	5.5
	(4)	①	データ	データの分布（累積度数）		○		45.2	8.6
		②		データの分布（四分位数）		○		10.6	13.0
	(5)	①		不確定な事象の起こりやすさ（場合の数）		○		69.4	1.2
		②		不確定な事象の起こりやすさ（確率）		○		37.1	8.0
	(6)	①	関数	反比例（座標）		○		22.5	4.6
		②		反比例（変域）		○		65.5	4.2
	(7)	①	図形	空間図形（ねじれの位置）		○		68.9	0.9
		②		空間図形（作図）			○	19.2	39.5
2	(1)		関数	関数 $y = ax^2$ （グラフ上の座標）		○		87.6	0.8
	(2)			一次関数（直線の傾き切片）		○		73.3	3.4
	(3)			関数 $y = ax^2$ （線分の長さ）		○		12.2	27.4
3	(1)		図形	平面図形（三角形に接する円）	○			78.4	0.1
	(2)	6点		平面図形（三角形の合同の証明）			○	16.6	
		3点						4.2	
		無答							31.2
4	(3)		図形	平面図形（角の二等分線の性質・三平方の定理の応用）		○		0.7	55.5
	(1)			平面図形（相似）		○		76.9	2.1
	(2)		関数	一次関数（直線の傾き）		○		67.3	8.3
	(3)			一次関数（直線の傾きと切片）		○		56.9	11.2
	(4)		図形	平面図形（相似の応用）		○		6.3	28.8
	(5)			平面図形（相似の応用）		○		22.3	36.3
	(6)			平面図形（相似の応用）		○		1.8	27.3

4 理 科（本検査）

（1）出 題 内 容

本年度「観察・実験を題材とした問題」、「身近な生活に関わりのある問題」を出題した。小問集合以外では、「観察、実験を題材とした問題」は大問 2・3・4・5・6・7・8・9、「身近な生活に関わりのある問題」は大問 2・3・4・6・8 である。思考力、判断力、表現力等をみる問題として、作図やグラフの問題を取り入れている。作図やグラフは、昨年度の本検査の 3 問に対し、本年度の本検査は 1 問である。

（2）結 果 の 説 明

全体の平均点は 55.3 点で、前年度と比べて 0.1 点低くなった。

正答率が高かった問題は、大問 2(1)「火山噴火に伴う現象と防災」、大問 5(1)「電気を通しやすい物質」及び大問 2(3)「マグマの性質」であった。一方、正答率が低かった問題は、大問 9(2)(b)「ばねがした仕事」、大問 9(3)「はかりに加わる力の大きさ」及び大問 8(3)「恒星が見える位置の変化」であった。

無答率が高かったのは、大問 7(4)「炭酸水素ナトリウムの熱分解〔計算〕」、大問 7(2)「炭酸水素ナトリウムの化学式〔記述〕」及び大問 9(1)「作用・反作用〔作図〕」であった。

（3）指導のポイント

物理的領域では、実験結果が得られた仕組み、法則をもとに思考し、作図したり、文章にしてまとめたりすることが必要である。また、実験条件を変更した場合には、どのような結果が得られるのか、法則や規則性をもとに思考し、物理現象について理解を深めさせることが大切である。

化学的領域では、実験を行い、化学式を用いたり、計算した数値をもとにしたりして、実験結果から考察することが必要である。また、実験でみられた反応が、日常生活で起こる反応にどのように関連しているのかについても考察し、化学変化について理解を深めさせることが大切である。

生物的領域では、観察・実験を行い、スケッチをとりながら観察したことを表現し、整理してまとめることが必要である。また、観察して得られた 1 つ 1 つの特徴を体系的に整理し、生物どうしの共通点や相違点について理解を深めさせることが大切である。

地学的領域では、観察・実験で得られた結果をもとに、グラフに表現したり、計算をして数値で比較したりしながら考察させることが必要である。また、考察では、異なる条件の場合にどのような結果が得られるのか思考し、地学現象の時間的・空間的な変化について理解を深めさせることが大切である。

(4) 問題の内容

問		問題の内容	問題形式			正答率 (%)	無答率 (%)
			選択	短答	記述		
1	(1)	音の性質	○			77.3	0.1
	(2)	物質の状態変化	○			56.9	0.1
	(3)	分解者のはたらき	○			71.4	0.1
	(4)	天気図記号	○			76.2	0.0
2	(1)	火山噴火に伴う現象と防災	○			97.5	0.0
	(2)	火山灰の特徴	○			78.3	0.1
	(3)	マグマの性質	○			80.9	0.1
	(4)	火山の形と噴火のようす	○			58.4	0.1
3	(1)	電流がつくる磁界の向き	○			55.5	0.5
	(2)	コイルの動かし方と電流	○			78.3	0.5
	(3)	棒磁石の動きと流れる電流の向き	○			61.4	0.6
	(4)	コイルに電流が流れた時間〔計算〕		○		32.0	11.9
4	(1)	神経の種類	○			79.0	0.1
	(2)	目の構造	○			53.7	0.2
	(3)	刺激に対する反応時間〔計算〕		○		29.5	9.4
	(4)	反射と反応の経路	○			44.1	0.1
5	(1)	電流を通しやすい物質	○			97.4	0.1
	(2)	硫酸の電離を表す反応式	○			67.3	0.2
	(3)	電離によるリトマス紙の変化	○			38.1	0.2
	(4)	イオンの数と電流の大きさの関係	○			30.0	1.0
6	(1)	被子植物の特徴	○			78.9	0.1
	(2)	種子植物の特徴	○			60.2	0.8
	(3)	コケ植物の特徴	○			61.4	0.2
	(4)	植物の分類	○			49.2	0.5
7	(1)	二酸化炭素の発生方法	○			67.5	0.3
	(2)	炭酸水素ナトリウムの化学式		○		33.4	16.3
	(3)	実験の方法	○			67.2	0.4
	(4)	炭酸水素ナトリウムの熱分解〔計算〕		○		30.1	26.3
8	(1)	観察した方角	○			69.3	0.6
	(2)	恒星の特徴	○			66.1	0.8
	(3)	恒星が見える位置の変化	○			28.1	1.1
	(4)	自転の向きと速さ	○			32.3	2.3
9	(1)	作用・反作用〔作図〕			○	37.8	16.0
	(2)	(a) ばねののび	○			79.9	2.6
		(b) ばねがした仕事	○			5.6	4.3
	(3)	はかりに加わる力の大きさ	○			8.4	6.3

5 英 語（本検査）

（1）出 題 内 容

大問4（リスニング）は、英語の文章を聞き、その要点を捉えることができるかをみる問題となっている。

大問5は、基礎的な語彙や表現について知識及び技能をみる問題である。文構造や文法事項を正しく用いて正しい語順で文を構成することができるかをみる問題となっている。

大問6は、英作文問題で、与えられた条件のもとで、自分の考えとその理由・説明を英語で適切に表現する問題であり、実践的なコミュニケーションを意識した問題となっている。

大問7(2)②及び大問8(3)は、英文から必要な情報を正しく読み取り、内容を理解したうえで「思考・判断」する問題となっている。

（2）結 果 の 説 明

全体の平均点は60.1点で、前年度と比べて13.0点高くなった。

正答率が高かったのは、大問1 No.1「対話の最後の発話に対する応答を選ぶ」及び3 No.1「対話と質問を聞いて、答えとなる英語を選ぶ」であった。

一方、正答率が低かったのは、大問5(3)「語順整序（～what time the movie starts.）」及び大問8(3)「内容に関する対話に合うように絵を並べる」であった。

無答率が高かったのは、大問6「状況に合った内容を作文する」であった。

（3）指導のポイント

「聞くこと」においては、英語の音声を聞き取る力とともに、目的や場面、状況などに応じて、何を聞き取るべきか判断し、情報や考えなどを理解する力を育成することが大切である。そのために、音のつながりなどを意識した音読などを通して英語の音声を認識する力を育てるとともに、聞き取った情報をまとめたり、概要や要点を話して伝えたりする活動などを通して、情報を整理しながら聞き取ろうとする態度の育成が必要である。

語彙や表現については、既習の語彙や表現を言語活動において繰り返し活用することによって、生徒が自分の考えなどを表現する際に使用できる段階まで確実に定着させたい。

「読むこと」においては、多様な英文に触れ、「必要な情報を読み取る」「概要を捉える」「要点を捉える」など、目的に応じて様々な読み取り方を指導することが大切である。また、読んだ内容を簡潔に伝える活動や、内容に対する意見を述べる活動、さらにそれを書いて表現する活動など、内容を把握するだけでなく、領域間の統合的な言語活動を工夫し、五つの領域が密接に結び付いた英語の活用ができる力を育成する必要がある。

記述式の問題については、無答率が高いことが課題である。日頃から、口頭練習を十分にしてから書く活動をするなど、間違いを恐れずに取り組める工夫をするとともに、知っている語彙や表現を駆使して意図する内容を伝えることができるよう指導することも重要である。

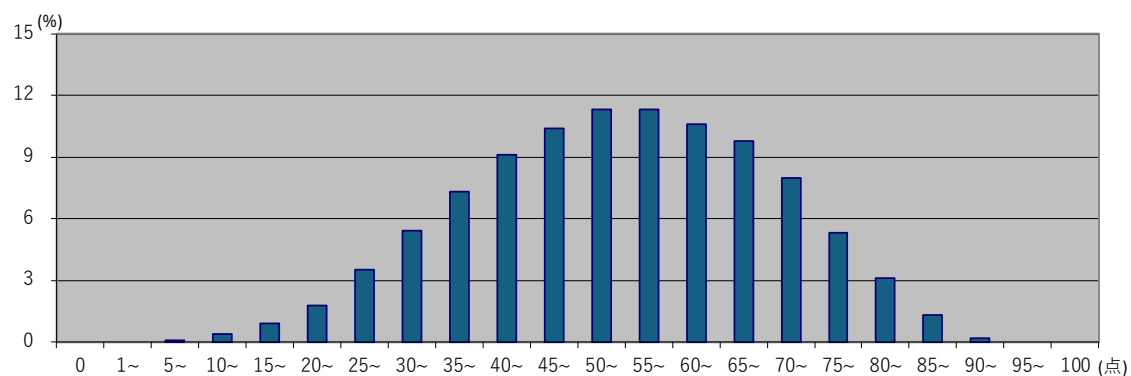
(4) 問題の内容

問			問題の内容	問題形式		正答率 (%)	無答率 (%)
				選 択	記 述		
1	No. 1	リス ニ ン グ	対話の最後の発話に対する応答を選ぶ	○		92.3	0.0
	No. 2		対話の最後の発話に対する応答を選ぶ	○		86.9	0.0
	No. 3		対話の最後の発話に対する応答を選ぶ	○		73.8	0.0
2	No. 1		対話と質問を聞いて、答えとなる絵を選ぶ	○		64.3	0.1
	No. 2		文章と質問を聞いて、答えとなる絵を選ぶ	○		89.5	0.0
3	No. 1		対話と質問を聞いて、答えとなる英語を選ぶ	○		91.5	0.0
	No. 2		文章と質問を聞いて、答えとなる英語を選ぶ	○		67.8	0.1
4	①		文章を聞いて、その内容を表す文の空欄に入る英語を選ぶ	○		58.9	0.1
	②		文章を聞いて、その内容を表す文の空欄に入る英語を選ぶ	○		67.3	0.1
5	(1)	文法・文構造	語順整序(I will go there by ～)	○		84.6	0.0
	(2)		語順整序(～ the boy playing soccer is ～)	○		53.1	0.2
	(3)		語順整序(～ what time the movie starts.)	○		35.2	0.3
6	12点	英作文	英作文(条件に合った内容を作成する)	○		10.2	
	8～11点					27.3	
	4～7点					21.9	
	1～3点					8.8	
	無答						18.9
7	(1)	発表原稿・広告等の読解	内容に合うように絵を並べる	○		79.2	0.1
			内容と合う英語を選ぶ	○		73.6	0.3
			内容と合う英語を選ぶ	○		48.6	0.3
	(2)		内容と合う英語を選ぶ	○		53.0	0.2
			内容と合う英語を選ぶ	○		43.8	0.5
			内容と合わない英語を選ぶ	○		38.8	0.7
8	(1)	長文読解	内容と合う英語を選ぶ	○		60.8	0.5
	(2)		文脈に合わせて英語を適切な場所に補充する	○		48.2	1.0
	(3)		内容に関する対話に合うように絵を並べる	○		33.8	2.8
	(4)		内容と合う英語を選ぶ	○		58.7	2.3
9	(1)	対話文読解	文脈に合わせて英語を選ぶ	○		67.8	0.3
	(2)		文脈に合わせて英語を選ぶ	○		60.2	0.6
	(3)		文脈に合わせて英語を選ぶ	○		59.9	0.8
	(4)		文脈に合わせて英語を選ぶ	○		57.7	1.1

IV 【本検査】受検者の得点分布

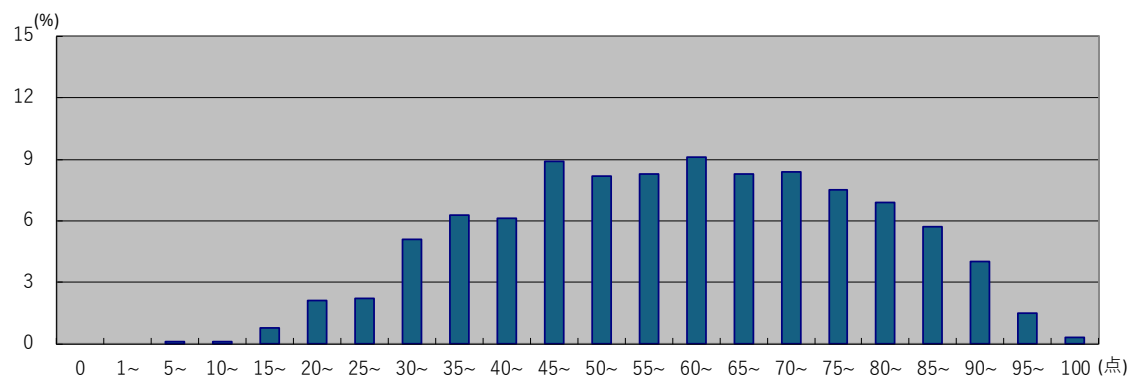
1 国語

平均点 54.0 標準偏差 15.9



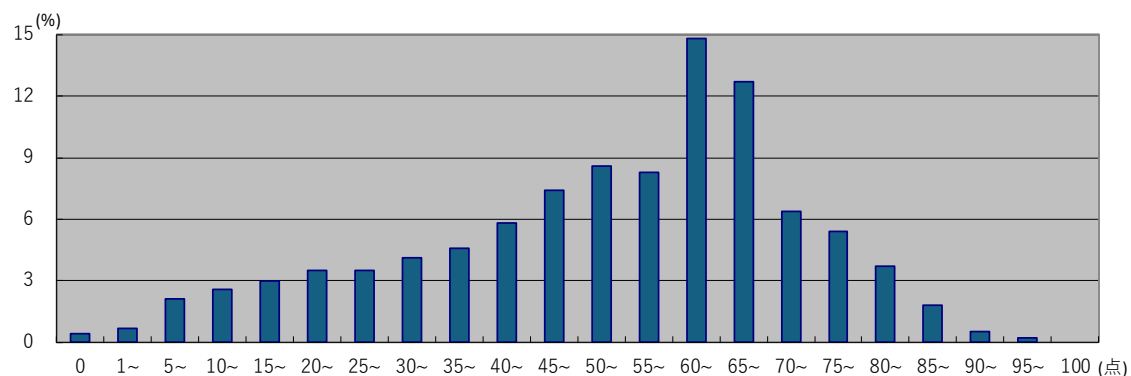
2 社会

平均点 60.0 標準偏差 19.2



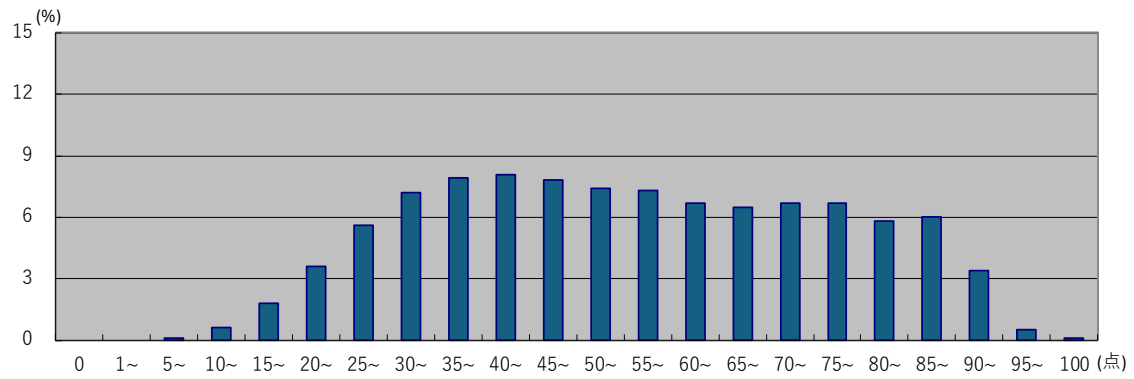
3 数学

平均点 52.6 標準偏差 20.1



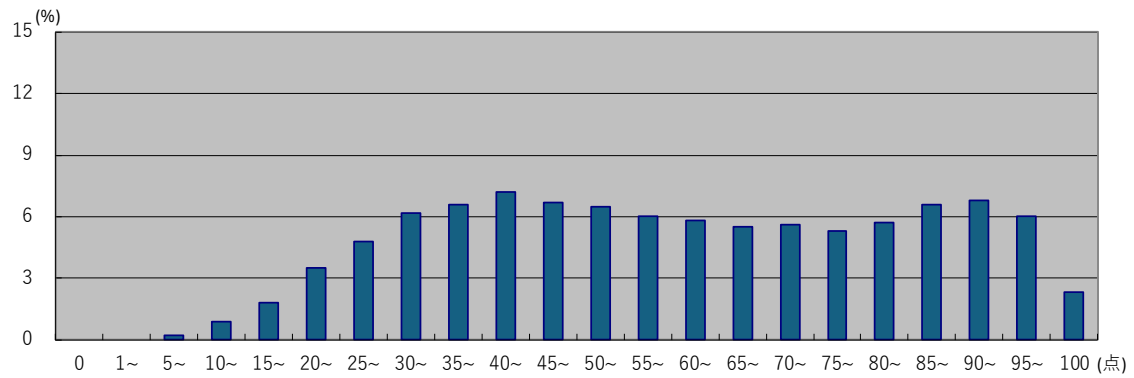
4 理科

平均点 55.3 標準偏差 20.8



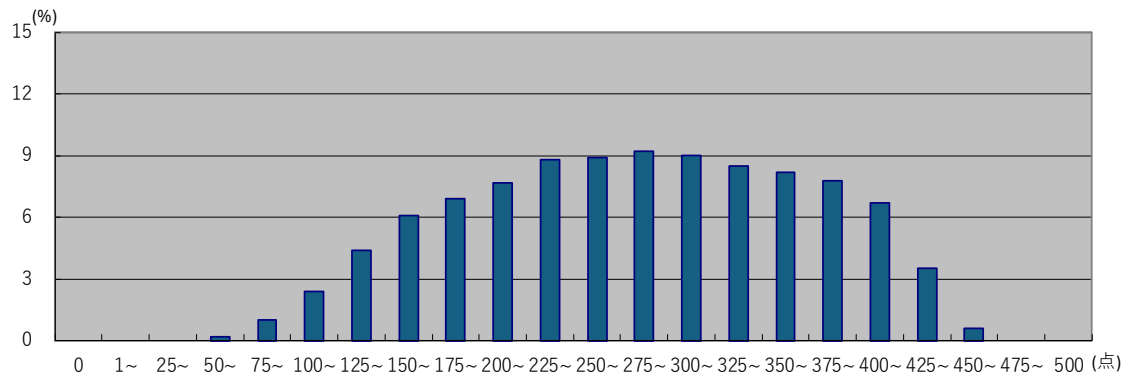
5 英語

平均点 60.1 標準偏差 24



6 5教科得点合計

平均点 281.9 標準偏差 89.9



V 【追検査】

1 国 語（追検査）

（1）出 題 内 容

大問一（聞き取り検査）は、千葉県で行われている「千産千消デー」について話している場面を聞き、会話の流れを正しく捉え、二人の説明の仕方や考え方、また、今後の展開について考える問題である。

大問五（文学的な文章）(6)は、文章を読んだ生徒の話し合いの場面を、大問六（古典）(5)は、授業で文章を読んだ生徒の感想の一部をそれぞれ別資料として提示し、複数資料の分析を通じてさらに深く読み解き、適切に自分の考えを表現する力をみる問題である。

大問七（条件作文）は、【資料】から日本語の魅力について、根拠を明確にしながらか説明し、自分の体験を踏まえて考えが伝わる文章になるように、工夫して表現する問題である。

（2）問 題 の 内 容

問		問題の内容	問題形式		
			選択	短答	記述
一	(1)	放送による聞き取り	会話の流れの理解	☐	
	(2)		会話の流れの理解	☐	
	(3)		会話の流れの理解	☐	
二	(1)	漢字（読み）	粗末〔そまつ〕		☐
	(2)		執る〔と〕		☐
	(3)		誉れ〔ほま〕		☐
	(4)		委嘱〔いしよく〕		☐
三	(1)	漢字（書き）	きざ〔刻〕		☐
	(2)		みつだん〔密談〕		☐
	(3)		ぼうはん〔防犯〕		☐
	(4)		せいそう〔西走〕		☐
四	(1)	説明的な文章 『「書くこと」の哲学 ことばの再履修』	文章中の表現の理解	☐	
	(2) I		文章の内容の理解	☐	
	(2) II		文章の内容の理解	☐	
	(3) (a)		文章中の表現の理解	☐	
	(3) (b)		文章中の表現の理解	☐	
	(4)		文章中の表現の理解	☐	
	(5) 4点		文章中の表現の理解		☐
	(5) 1～3点 無答				
五	(6)	文学的な文章 『春、出逢い』	文章の構成の理解	☐	
	(1)		品詞の識別	☐	
	(2)		文章中の慣用句の表現	☐	
	(3)		登場人物の心情の理解	☐	
	(4)		登場人物の心情の理解	☐	
	(5)		文章中の表現の理解	☐	
	(6) (a)		登場人物の心情の理解	☐	
	(6) (b)		文章の内容の理解	☐	
	(c) 4点		登場人物の心情の理解と表現		☐
	(c) 1～3点 無答				
六	(1)	古典 『醒睡笑』	歴史的仮名遣い		☐
	(2)		文章中の内容の理解	☐	
	(3)		文章中の内容の理解	☐	
	(4)		文章中の内容の理解	☐	
	(5) (a)		漢文訓読法	☐	
	(5) (b)		文章中の内容の理解	☐	
	(c) 4点		文章の内容の理解と表現		☐
	(c) 1～3点 無答				
七		条件作文 「日本語の魅力」について	【資料】を踏まえての二段落構成の作文 ・前段は、【資料】の項目から一つ選び、日本語の魅力について説明する ・後段は、前段に関連させて、自身の力を高めるためにはどうしたらよいかを、自分の体験を踏まえながら考えを書く		

2 社 会（追検査）

（１）出 題 内 容

各分野において、「基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けているかをみることができる問題」を出題した。

「現代社会の諸課題に対する関心や理解の程度をみることができる問題」として、具体的には、大問 1(4)、大問 6(2)、大問 7(1)、大問 8(3)を出題した。

「諸資料を活用し、社会的事象を判断・分析する力をみることができる問題」として、具体的には、大問 4(2)、(4)、大問 5(4)、(5)、大問 7(3)を出題した。

「社会的事象について思考・表現する力をみることができる問題」を、歴史的分野、地理的分野、公民的分野から 1 問ずつ出題した。具体的には、大問 3(4)、大問 4(5)、大問 7(2)である。

歴史的分野において、できごとなどを年代の古いものから順に並べ替える問題を 2 問出題した。

具体的には、大問 1(2)、大問 2(1)である。

（２）問 題 の 内 容

問		問題の内容	問題形式		
			選択	短答	記述
1	(1)	総合問題 世界人権宣言について	○		
	(2)	外国から日本へもたらされた技術や文化	○		
	(3)	日本の食文化	○		
	(4)	世界各国のジェンダーギャップ指数	○		
2	(1)	前近代史 724年以降の日本の出来事の並び替え	○		
	(2)	元号の歴史	○		
	(3)	歌枕について	○		
	(4)	松尾芭蕉と同時代に活躍した人物	○		
	(5)	河原者の歴史	○		
3	(1)	近・現代史 地租改正	○		
	(2)	男子普通選挙の実現	○		
	(3)	1929年から47年までの日本の出来事の並び替え	○		
	(4)	朝鮮戦争の経緯			○
	(5)	国際博覧会の開催国について	○		
4	(1)	世界地理 正距方位図法と日本・大陸の位置	○		
	(2)	アメリカ合衆国の人種・民族	○		
	(3)	砂漠化		○	
	(4)	世界各国の宗教と分布	○		
	(5)	東南アジアの産業			○
5	(1)	日本地理 東北地方の地理と伝統工芸品	○		
	(2)	北九州市の産業	○		
	(3)	日本近海について	○		
	(4)	日本の農業と産業	○		
	(5)	地形図の読み取り	○		
6	(1)	国際 南南問題	○		
	(2)	日本の国際協力	○		
7	(1)	経済 日本の人口問題と社会保障	○		
	(2)	株式会社の仕組み			○
	(3)	流通問題	○		
8	(1)	政治 国会の種類	○		
	(2)	国会議員の身分	○		
	(3)	内閣総理大臣の指名	○		

3 数 学 (追検査)

(1) 出 題 内 容

大問 1 は、各領域の基本的な問題である。

大問 2 は、関数 $y = ax^2$ 上にある 2 点を共有する正方形があり、その正方形の 1 辺と y 軸上との交点を通り、正方形の面積を 2 等分する直線の式を求める問題である。

大問 3 は、直角二等辺三角形の性質及び対象移動した図形の性質を利用し、2 つの三角形が合同であることを証明する問題である。また、図形の性質を利用し、線分の長さを求める問題である。

大問 4 は、正多角形の頂点を中心とし、半径が正多角形の 1 辺となる円の面積等について、会話文や図から正確に情報を読み取り、おうぎ形の角の大きさや正多角形の頂点の個数を求める問題である。

(2) 問 題 の 内 容

問			問題の内容	問題形式		
				選 択	短 答	記 述
1	(1)	①	数と式	正の数と負の数（四則計算）	☐	
		②	文字を用いた式（四則演算）		☐	
		③	平方根（根号を含む式の計算）		☐	
	(2)	①	連立方程式（文字を用いて式で表す）	☐		
		②	連立方程式（連立方程式を解くこと）		☐	
	(3)	①	図形	空間図形（投影図）	☐	
		②	空間図形（三角柱の体積）		☐	
	(4)	①	データ	データの分析（ヒストグラム）	☐	
		②	データの分析（四分位範囲）		☐	
	(5)	①	不確定な事象の起こりやすさ（確率）		☐	
		②	不確定な事象の起こりやすさ（確率）		☐	
	(6)	①	関数	一次関数（傾きと切片）		☐
		②	一次関数（ x 軸に平行な直線）		☐	
	(7)	①	図形	平面図形（三平方の定理）		☐
		②	平面図形（作図）			☐
2	(1)	関数	関数 $y = ax^2$ （比例定数）		☐	
	(2)		関数 $y = ax^2$ （関数 $y = ax^2$ と正方形）		☐	
	(3)		関数 $y = ax^2$ （面積を 2 等分する直線の式）		☐	
3	(1)	図形	平面図形（直角二等辺三角形）	☐		
	(2)		平面図形（三角形の合同の証明）			☐
	(3)		平面図形（相似の応用）		☐	
4	(1)	図形	平面図形（正多角形と円）		☐	
	(2)		平面図形（正多角形と円）		☐	
	(3)		平面図形（正多角形の内角）		☐	
	(4)		平面図形（正多角形と円）		☐	
	(5)		平面図形（正多角形と円）		☐	
	(6)		平面図形（正多角形と円）		☐	

4 理 科（追検査）

（１）出 題 内 容

本年度も「観察・実験を題材とした問題」、「身近な生活に関わりのある問題」を出題した。小問集合以外では、「観察・実験を題材とした問題」は大問 2・3・4・5・6・8・9、「身近な生活に関わりのある問題」は大問 5・7・9 である。思考力、判断力、表現力等をみる問題として、作図の問題を取り入れている。作図やグラフは、本検査と同様に 1 問である。

（２）問 題 の 内 容

問	問題の内容	問題形式		
		選 択	短 答	記 述
1	(1) 直列回路の抵抗	○		
	(2) 原子の構造	○		
	(3) 魚類と両生類の特徴	○		
	(4) 堆積岩の特徴	○		
2	(1) ガスバーナーの使い方	○		
	(2) 物体の特徴	○		
	(3) 物質の特定	○		
	(4) 物質の密度と浮力の関係	○		
3	(1) 太陽の特徴	○		
	(2) 黒点の観察から分かる太陽の特徴	○		
	(3) 黒点の大きさ〔計算〕		○	
	(4) 地球型惑星と木星型惑星の特徴	○		
4	(1) 凸レンズと像の大きさ	○		
	(2) 焦点距離〔計算〕		○	
	(3) 像の特徴	○		
	(4) スクリーンに映る像の向き	○		
5	(1) 顕微鏡の使い方	○		
	(2) 動物細胞と植物細胞の特徴	○		
	(3) 呼吸のはたらきと養分の運搬	○		
	(4) 葉緑体のはたらき	○		
6	(1) 小球にはたらく力	○		
	(2) 小球にはたらく垂直抗力	○		
	(3) (a) 小球の速さ	○		
	(b)(c) 小球の力学的エネルギー	○		
7	(1) 無性生殖の特徴	○		
	(2) 染色体の数	○		
	(3) メンデルの実験	○		
	(4) 遺伝のしくみ	○		
8	(1) 酸化・還元された物質	○		
	(2) 化学反応式		○	
	(3) 実験後の物質の量〔計算〕		○	
	(4) 炭素と反応せずに残った酸化銅〔グラフ〕			○
9	(1) 直方体の質量	○		
	(2) 気圧による現象	○		
	(3) 気圧の大きさ〔計算〕		○	
	(4) 気圧で雲や風が生じるしくみ	○		

5 英 語（追検査）

（１）出 題 内 容

大問４（リスニング）は、英語の文章を聞き、その要点を捉えることができるかをみる問題となっている。

大問５は、基礎的な語彙や表現について知識及び技能をみる問題である。文構造や文法事項を正しく用いて正しい語順で文を構成することができるかをみる問題となっている。

大問６は、英作文問題で、与えられた条件のもとで、自分の考えとその理由・説明を英語で適切に表現する問題であり、実践的なコミュニケーションを意識した問題となっている。

大問７(1)②は、英文から必要な情報を正しく読み取り、内容を理解したうえで「思考・判断」する問題となっている。

（２）問 題 の 内 容

問			問題の内容	問題形式	
				選 択	記 述
1	No. 1	リス ニ ン グ	対話の最後の発話に対する応答を選ぶ	○	
	No. 2		対話の最後の発話に対する応答を選ぶ	○	
	No. 3		対話の最後の発話に対する応答を選ぶ	○	
2	No. 1		文章と質問を聞いて、答えとなる絵を選ぶ	○	
	No. 2		対話と質問を聞いて、答えとなる絵を選ぶ	○	
3	No. 1		対話と質問を聞いて、答えとなる英語を選ぶ	○	
	No. 2		文章と質問を聞いて、答えとなる英語を選ぶ	○	
4	①		文章を聞いて、その内容を表す文の空欄に合う英語を選ぶ	○	
	②		文章を聞いて、その内容を表す文の空欄に合う英語を選ぶ	○	
5	(1)	文法・文構造	語順整序 (Would you like to come ～)	○	
	(2)	語順整序 (～ your teacher what to do)	○		
	(3)	語順整序 (～ that my father gave me ～)	○		
6		英作文	英作文 (状況に合った内容を作文する)		○
7	(1)	発表原稿・広告等の読解	内容に関する文の空所に入る英語を選ぶ	○	
			内容に関する会話に合うスライドを選ぶ	○	
			内容と合う英語を選ぶ	○	
	(2)		文脈に合わせて英語を選ぶ	○	
			文脈に合わせて英語を選ぶ	○	
			内容と合う英語を選ぶ	○	
8	(1)	長文読解	文脈に合わせて英語を選ぶ	○	
	(2)		文脈に合わせて英語を選ぶ	○	
	(3)		内容と合う英語を選ぶ	○	
	(4)		内容と合う英語を選ぶ	○	
9	(1)	対話文読解	文脈に合わせて英語を選ぶ	○	
	(2)		文脈に合わせて英語を選ぶ	○	
	(3)		文脈に合わせて英語を選ぶ	○	
	(4)		文脈に合わせて英語を選ぶ	○	